

7 指導計画 全2時間
別紙「指導計画」参照

8 本時の構想<第2日目> 2/2時間(45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 2/2時間目)

どうしたら友達との深まりある人間関係をつくることができるかを哲学対話を通して考えることで、自分の思いや考えを伝えること、相手に何かあったのではないかと考えたり、相手の考えを聞いたりすることが大切であること、理解を深め、具体的にどのように行動したらよいかを考えることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>前時の振り返りとともに、哲学対話で話し合う問いについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「約束とは何か」についてみんなで話し合うのだよな。 ・確かに、どれも「なぜ、こうなったのか」ということに関係しているな。 ・約束の何について話をしようと思っているのかな。 ・そもそも、今回の約束って言えるのかな。 ・約束って、どういうことだろう。 <p>1 学習課題について、哲学対話で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、こうなってしまったのでしょうか。そもそも、二人は約束をしていると言えるのでしょうか。 ・約束というのは、お互いに「分かったよ」と言っているものですね。この場合は、よし子さんは約束をしたと思っていますが、えり子さんは約束をしないと思っています。 ・片方が約束をしたと思っても、もう片方が約束だと思っていなかったら、それは約束とはいえないと思います。 ・どうして、こうなってしまったのでしょうか。 ・ちゃんと話を聞かなかったからです。今回の場合だったら、メールとかが必要だったと思います。 ・でも、今回みたいに思い込んでしまうことはあります。そうなる前に、ちゃんと相手の話を聞いてみるのが大切になると思います。 ・実際に起こったら、お互いのことは分かりません。そういうときって、どうしたらよいのでしょうか。 ・う～ん。難しい。 ・「大丈夫かな」「何かあったのかな」って相手を思っただけでも違うのではないのでしょうか。今回のたど、頭にきて「ふんっ」ってなっていますが、そうならないためには、<u>相手を心配する</u>ということか…。 ・相手を思いやるってことですか。 ・そうそう。 ・でも、そのためにできることは、やっぱり<u>心配することくらいしかできない</u>気がします。 ・それだけでも、いいんじゃないかなと私は思います。気遣うというか。 ・気遣って、相手のことを考えるということですね。 ・あとは、話をちゃんと聞くこと。すぐに頭にこないようにすること。<u>実際には難しいけれど…</u> ・そうなんだよね。実際にあったら、頭にきます。それで、喧嘩になってしまいます。 <p>☆道徳科①：相互理解、寛容についての考え</p>	<p>教師の働き掛け</p> <p>○説明「昨日、みんなは『誰が悪いのか』『相手と意見が食い違ったとき、どうすればよいか』『約束とは、何か』ということについて話し合いたいと言っていましたね。これらは、どれも『なぜ、こうなったのか』ということにつながります。中でも、『約束とは、何か』について話し合いたいと言いました。約束の何について話し合いたいと思っているのですか」</p> <p>○説明「哲学対話で話し合しましょう」 【働き掛け3】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 なぜ、こうなったのか。約束とは、何か。</p> </div> <p>※ 哲学対話：10分程度時間をとる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">☆哲学対話で大切なこと☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めた問いに対して何を言ってもよい。 ・人をちやかすようなことは言わない。 ・発言しないで聴いて考えているだけでもよい。 ・自分の考えを途中で変えてもよい。 ・自分の<u>思ったことを自分の経験などにそくして考える。</u> ・お互いに<u>問いを投げかけ合う</u>ようにする。 ・<u>考えを深めるための鍵</u>を使って対話をする。 ・最後に<u>全体で結論を出さなくてもよい。</u> ・最後まで、相手の話を聴く。 ・相手の考えを否定しない。反論はよい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">考えを深めるための鍵^{かぎ}</p> <ul style="list-style-type: none"> Q. それってどういうこと？ Q. なぜ？ どうして？ Q. それって本当かな？ Q. その考えはどこからきたの？ Q. この意見の根っこには、 どんな考えがあるのだろう？ Q. 例えば？ Q. そうじゃない場合は、どうかな？ Q. 別の立場になって考えてみたら、どうかな？ </div>

★**道徳科③**：相互理解、寛容を理解したうえで、**何が**できるか態度を考えている**姿勢**
★協働性

- ・はっきりしたことは、相手の話をまずは聞かなくてはいけないと思えます。
- ・はっきりしたことは、相手のことがちゃんと考えることが大切だということです。でも、実際はできないこともあります。
- ・実際には難しいなと思うことをどうしたらできるようになるのかをみんなでもう少し考えたいです。

【Aグループ】

- ・頭にくる気持ちは分かるのですが、こうならぬためには相手の話をきちんと聞くことが大切だと考えました。

【Bグループ】

- ・腹が立ったとしても、相手にも何か事情があったのではないかと、相手のことを少し思うことが大切だと考えました。

【Cグループ】

- ・頭にきても、相手の話を聞いて、最後には許すことや相手の考えを受け止めることが大切だと考えました。

★**道徳科①**：相互理解、寛容についての考え
★**道徳科③**：相互理解、寛容を理解したうえで、**何が**できるか態度を考えている**姿勢**
★協働性

2 対話を通して、考えたことを基に実現に向けての具体的な行為の在り方を考える。

- ・すごく頭にくるし、難しいとは思いますが、相手の話を聞こうと思います。始めは、頭にくるから無視をしようと思っていたけれど、それでは解決にならないと思ったからです。
- ・すごく腹は立つけれど、相手が何か言おうとしているときには我慢して話を聞こうと思います。何かどうにもならないような理由があったのかもしれないから

★**道徳科②**

3 自分の考えの変容を自覚する。

- ・2時間の学習で、自分だけの都合で考えるのではなく、「相手にも何かあったのではないかな」と考えることが大切だと思えました。そうすると、友達と仲良くいられたと思うからです。

★**道徳科①**
★**道徳科③**

※ 10分が経過したところで、振り返りの時間を設ける。

○指示「一旦、対話をやめてください」

○指示「ここまで話し合ったら、学習課題について話し合ってください。話し合ったら、新しいことを考えたいことを書いてください。新しいことを考えるときは、赤色で書きましょう」

○指示「各グループでどのような話をしたのか紹介してください」

※ グループごとに紹介されたことを要約してまとめ、板書する。

【相互理解、寛容の道徳的価値に関すること】

- ・相手の話を聞くこと
- ・相手にも事情があったのではないかと考えること
- ・広い心で相手を許すこと、相手を受け止めること

○発問「昨日の場面で聞いたことを、もう一度聞きます。自分がえり子だったら、どうしますか。理由も書きましょう」
【働き掛け4】

※ 働き掛け1と同様の場面について、再度自分だったらどうするかと問う。その際、理由もワークシートに記述するように指示する。

※ 働き掛け1から4にかけての自分の考えが分かるようなワークシートにする。

○指示「2時間の学習で、最も大切だと思うことは何か。なぜ、そのように考えるのか理由も書きましょう」
【働き掛け5】

(3) 評価

道徳的価値「相互理解、寛容」の本質(相手の話を聞いたり、相手の事情を推し量ったりして理解しようとする、相手の言動が自分の期待と異なったときに広い心で受け止めること)の大切さの理解を深め、具体的にどのように行動したらよいかを考えることができたかを発言と記述から評価する。

☆授業開始時の考えから、授業終末時の考えを比較し、何がどのように影響して変容したのかを見ることで、子どもの成長を見取ることができる。ただし、1時間での評価は行わない。